

あいおがさとなにのらりれわを 研究社 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 第一印刷出版 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 本明朝小がな Book (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを MS 明朝 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 精興社 10pt
 あいおがさとなにのらりれわを 精興社 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 文昌堂 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 錦精社 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 凸版印刷 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 三省堂 (八王子工場) 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 理想社印刷所 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 石井中明朝 (NKL) (写)
 あいおがさとなにのらりれわを 本蘭明朝 (写)
 あいおがさとなにのらりれわを モリサワ明朝 (写)
 あいおがさとなにのらりれわを 東京印書館 (写)
 あいおがさとなにのらりれわを 築地体三十五ボ (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 游築 36 ボ W3 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 築地体三号細仮名 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英三号 R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを と 築地活文舎五号 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを A1 明朝 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを マティス M (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを リュウミン R-KL (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 学参リュウミン R-KL (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを リュウミン・オールド R-KO (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを ヒラギノ W3 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 游明朝 R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 筑紫明朝 R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 筑紫 A オールド明朝 R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 平成明朝 W3 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 小塚明朝 R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを イワタ新聞明朝 M (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 毎日新聞明朝 L (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 朝日新聞明朝 Book (デ)

あいおがさとなにのらりれわを 築地四号太仮名
 あいおがさとなにのらりれわを 築地四号細仮名
 あいおがさとなにのらりれわを と 築地前期五号
 あいおがさとなにのらりれわを と 築地体前期五号仮名 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 築地後期五号細仮名
 あいおがさとなにのらりれわを 築地体後期五号仮名 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 游築五号 W3 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 游明朝体五号かな R (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを と 築地後期五号太仮名 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 築地 12pt
 あいおがさとなにのらりれわを 石井中明朝体 (OKL) (写)
 あかがたのりを 築地 7pt
 あいおがさとなにのらりれわを 國文社
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英四号 (明治 29 年)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英四号 (昭和 3 年)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英明朝 L (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英五号 (明治 29 年)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英五号 (大正 3 年)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英 5 号 M (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 大日本印刷 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英明朝 L (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 秀英 8pt
 あいおがさとなにのらりれわを 大日本法令印刷 8pt
 あいおがさとなにのらりれわを 図書印刷 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 大日本法令印刷 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 榮弘 (岩田母型) 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 大蔵省印刷局 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを 後藤活字 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを イワタ明朝オールド M (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを モトヤ 9pt
 あいおがさとなにのらりれわを モトヤ明朝 3 (デ)
 あいおがさとなにのらりれわを 日本活字工業 9pt

車亦くんは何を以て之を累たすを得べき殊に社會に對し事を爲すの人は技術家にあらざるよりは終日家にあるもの少きなり是等の人に謀ることあるは必ず早朝纏かに寢を起るの時に於て面會を求めざるべからざるなり又人力車の足を借らされは時間後々の恐あり今夫れ人世の事の何たると業の何たるとを問はず能交通の便利を中流人より興ふるもの何物ぞ何等ありとも未嘗て人力車の輪に若くものはあらざるなり抑々社會進歩の順序より見れば輿の駕籠とありて一進し人力を省き駕籠の人力車とありて二人を一人に減じたるは用器の進化せしものにして大に社會に益あり然れども人を以て馬牛より代ふるは尙よA道理不ならず乃人をして馬牛たらしめず馬牛は自ら馬牛たらしめんと欲せば國人の富其度を高めて馬車を備ふるの易さと人力車を備ふるか如きの地位は達するの時代たらしめざるべからず今已に社會の進歩驛乎として其速かあるより之を見れば早晚其地位は達するの時あるべしと雖も本邦の現況は尙未た人力車時代の範圍を出つるとを得ざるべし人間社會の情勢は道理の正しきありとも未だ實際の利を屈すると能はず財産の度に踰るること能はず方に文明お進むの途上おありて今俄かお人力車を廢することは苟も成し得ざる所あり

○人事門
盆踊りに就き 玩古道入
孟蘭盆會即ち年の七月十五十六の兩夜は何處の土地にても男女打集ひて歌ひつ舞ひつするを盆踊りといふ其手ぶり足ぶみより歌のよし鳴物のはやしなどとは異なれども年若きもの共の一年一度の上も亦快樂とする人情は御國の内何れの市町村里も總て同じかるべし○さて此の男女の打交りて語りかづるははれぞこれ吾が國古來の風俗にて上世は耀歌とも歌垣ともいひ其風俗を數千年の後までも傳へたるおといひども等々國柄にぞあるその耀歌と歌垣とは一事兩名にて常陸風土記に耀歌俗に宇太我岐又加我毘とあるにて知るべし
按にカ、ヒはガヤガヤと語りて叫び合ふさまより然かよびけん萬葉集十四に筑波嶺爾可加奈久勢とあり又日本紀七景行記に天皇渡淡水門聞覺賀鳥之聲とあり覺賀鳥とは雁也にて其鳴聲のカ、ヒと聞ゆるにカ、ヒの名あるからん上の可加鳴く聲と同じかるべしさればカ、ヒもろの如くカ、ヒも互ひに叫び合ふよりおの名ありと知らる次に引く古事記の文に門門とあるは撃ち門ふにはあらで云ひ門ひて夜を明し、からん本居大人は此二字を「カ、ヒアカシ」と訓せりさておの言はカ、ヒカ、フと變轉するは下に引く萬葉集の加賀布耀歌とあるにて知るべし又おのカ、ヒに耀の字を用ゐたるは字書に耀は音聲好也鏡也又耀々は往來の貌又耀歌は巴人の歌也とあり而して耀の字は耀也戲弄也按彌乃燒之俗字とあり其兩字義を併せ考ふる

三

とを問はず能交通の便利を中流人より興ふるもの何物ぞ何等ありとも未嘗て人力車の輪に若くものはあらざるなり抑々社會進歩の順序より見れば輿の駕籠とありて一進し人力を省き駕籠の人力車とありて二人を一人に減じたるは用器の進化せしものにして大に社會に益あり然れども人を以て馬牛より代ふるは尙よA道理不ならず乃人をして馬牛たらしめず馬牛は自ら馬牛たらしめんと欲せば國人の富其度を高めて馬車を備ふるの易さと人力車を備ふるか如きの地位は達するの時代たらしめざるべからず今已に社會の進歩驛乎として其速かあるより之を見れば早晚其地位は達するの時あるべしと雖も本邦の現況は尙未た人力車時代の範圍を出つるとを得ざるべし人間社會の情勢は道理の正しきありとも未だ實際の利を屈すると能はず財産の度に踰るること能はず方に文明お進むの途上おありて今俄かお人力車を廢することは苟も成し得ざる所あり



度の上も亦快樂とする人情は御國
て同じかるべし○さて此の男女の打交
ぞこれ吾が國古來の風俗にて上世は耀
俗を數千年の後までも傳へたるおといひ
その耀歌と歌垣とは一事兩名にて常陸
岐又加我毘とあるにて知るべし
按にカ、ヒはガヤガヤと語りて叫び
ん萬葉集十四に筑波嶺爾可加奈久勢
に天皇渡淡水門聞覺賀鳥之聲とあり
聲のカ、ヒと聞ゆるにカ、ヒの名ある
同じかるべしさればカ、ヒもろの如
よりおの名ありと知らる次に引く古
撃ち門ふにはあらで云ひ門ひて夜を
此二字を「カ、ヒアカシ」と訓せりさ
と變轉するは下に引く萬葉集の加賀
し又おのカ、ヒに耀の字を用ゐたる
也又耀々は往來の貌又耀歌は巴人の
は耀也戲弄也按彌乃燒之俗字とあり